

**My  
Rock'n'Roll  
Life**

## First Day

---

あの日、高校生だった俺はギターを手にした。

当時はただ音楽を演ってみたくて、テレビの中のロックスターに夢中だった。

周りの友達は“似合わない”とか“止めた方が良くよ”なんて、おせっかいなことを好き勝手言った。

でも、なぜだか、周りの言葉なんて気にならないほど、ただ、夢中だった。

指も動かない。5分も触れば手が痛くなる。

CDで聴くカッコいいフレーズ。

絶対にいつか、弾けるようになりたい。

それが俺の夢で、それが叶うなら、この人生それが目標だと思っていた。

## Love

---

彼女は、となりのクラスだった。  
一目見た時から、気になって仕方がなかった。

恋。

こんなに心が動いたのは初めてだった。  
だけど、自信も、オシャレも、話術も、何も無い自分には、絶対に手の届かない存在だった。

ギターが弾ければ...  
ギターが弾ければ、彼女は振り向いてくれるはず。

そんな期待を胸に、ただ毎日ギターを弾いていた。  
歌を作りたかった。彼女に贈る世界で1つだけの歌を作りたかった。

でも、当時の俺は1オクターブも声が出なかった。  
ヘンな声だと、周りの友達からは笑われた。

それでも、続ければきっと、何かが変わる。  
根拠なんてないのに、ただそう確信していた。

## Live

---

Liveは、ギターを始めてから約3年後だった。

バンド仲間と深夜のスタジオ。  
どこにもぶつけられない想いを、ただ歌にした。

ギターは、少しずつ、弾けるようになってきた。  
それでも、まだまだ理想の自分とは程遠かった。

いつもはモテないし、自分の事を主張するなんて絶対出来なかった。

でもステージの上では、ちょっとだけ違った。

全部、自分の好きな様に、ロックンロールを演れた。  
違う、自分に、なれた気がした。

ありがとう。  
音楽の神さま。

## LAWSON

---

アルバイトで一緒の時間に働いていた娘に一目惚れした。

彼女はアユミって名前だった。

今、何をしているんだろう？

夜中になっても、彼女のことが気になって、眠れなかった。

俺は思いきって、手紙を渡すことにした。

近いうちに、お祭りがあった。そこに誘う手紙だ。

渡す時、足が震えた。

ギターが、あれば、良かったのに。

そんな俺だったけど、彼女は笑顔で快諾してくれた。

今でも、あの時の嬉しさは忘れてない。

その年のお祭りは、いつもより華やかな気がした。

## Dream

---

気がつけば“就職”という現実が、目の前まで迫っていた。

俺の夢は一体何だったのか。

あの日、憧れた自分になれているのか。

答えも出ないまま、無防備なまま、社会という世界に出た。

そこは、何か、違うように思った。

だけど、夢が分からない自分には、どうすることも出来なかった。

気がつけばギターは、押し入れに入っていた。

続く...

---

そして、俺のロックンロールライフは、さらに続いていく...

## My Rock'n'Roll Life

<http://p.booklog.jp/book/42314>

著者：謎のロックンローラー

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tomonbook/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42314>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42314>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.